

令和6年度「アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針」の取組状況に係る調査の結果について（概要版）

【調査概要】

1. 調査の目的

農林水産省が令和5年7月に発出した「アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針（AW指針）」の取組状況を把握し、今後の国内におけるアニマルウェルフェアの取組の推進のための基礎データとするため。

2. 調査の対象

乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、肉用鶏及び馬の生産者。

3. 調査の方法

（1）調査実施期間

令和6年11月～令和7年2月

（2）調査票の配布と回答

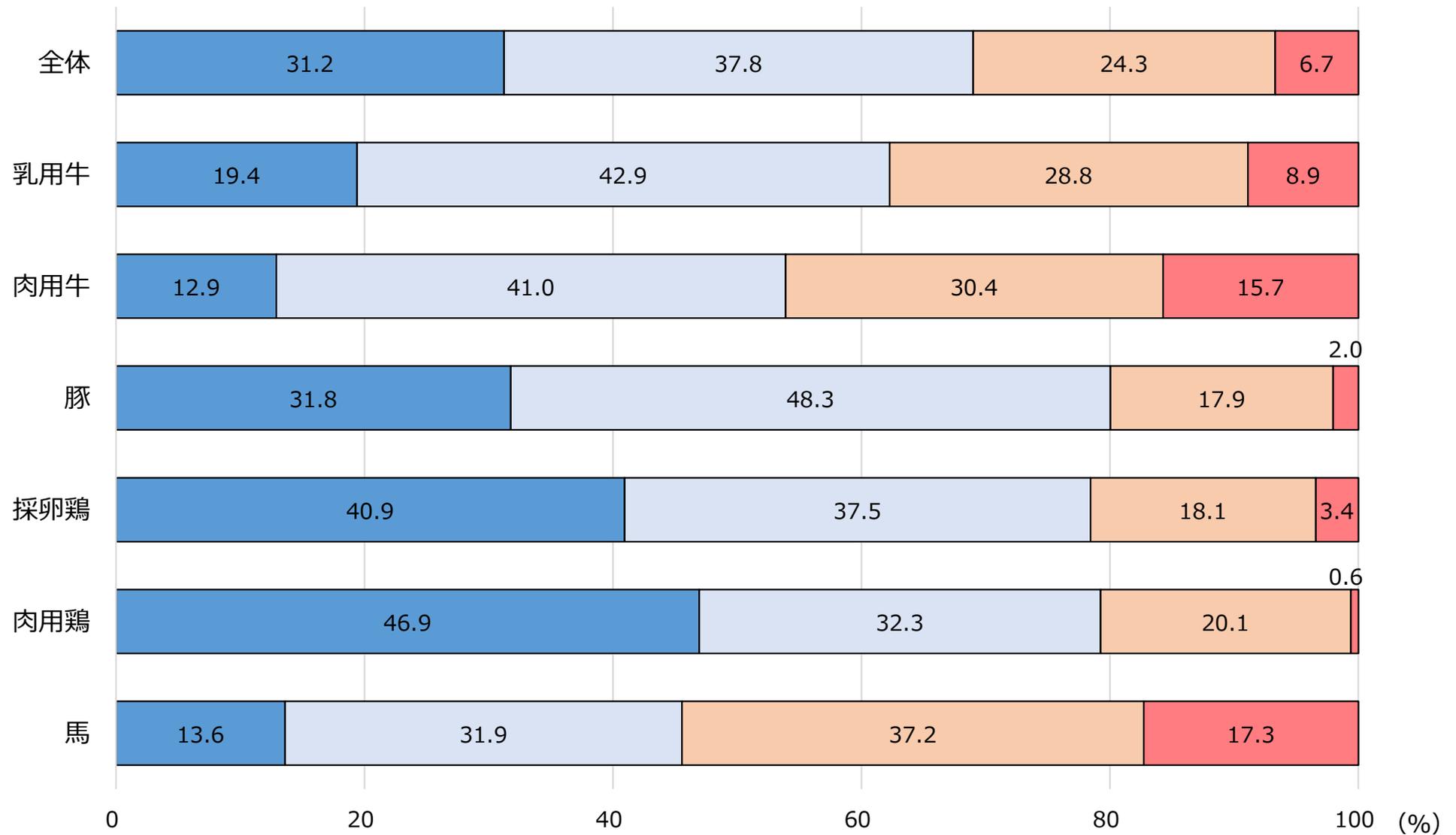
- 都道府県畜産主務課及び畜産関係団体（公益社団法人畜産技術協会）を通じて、AW指針に関するチェックリストを基にした調査票を生産者に配布し、オンラインフォームまたは紙による回答への協力を依頼。
- 回答は設問ごとに「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4択から選択する方式。

（3）調査結果の集計

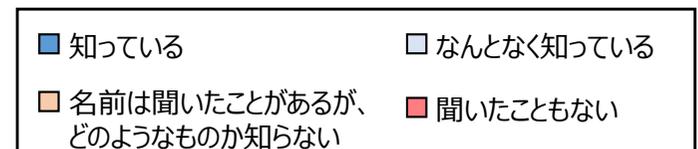
農林水産省において、各設問の有効回答の積み上げにより実施。

（無回答及び無効回答の存在により、各設問の有効回答数が異なる。）

「アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針」の認知度・理解度



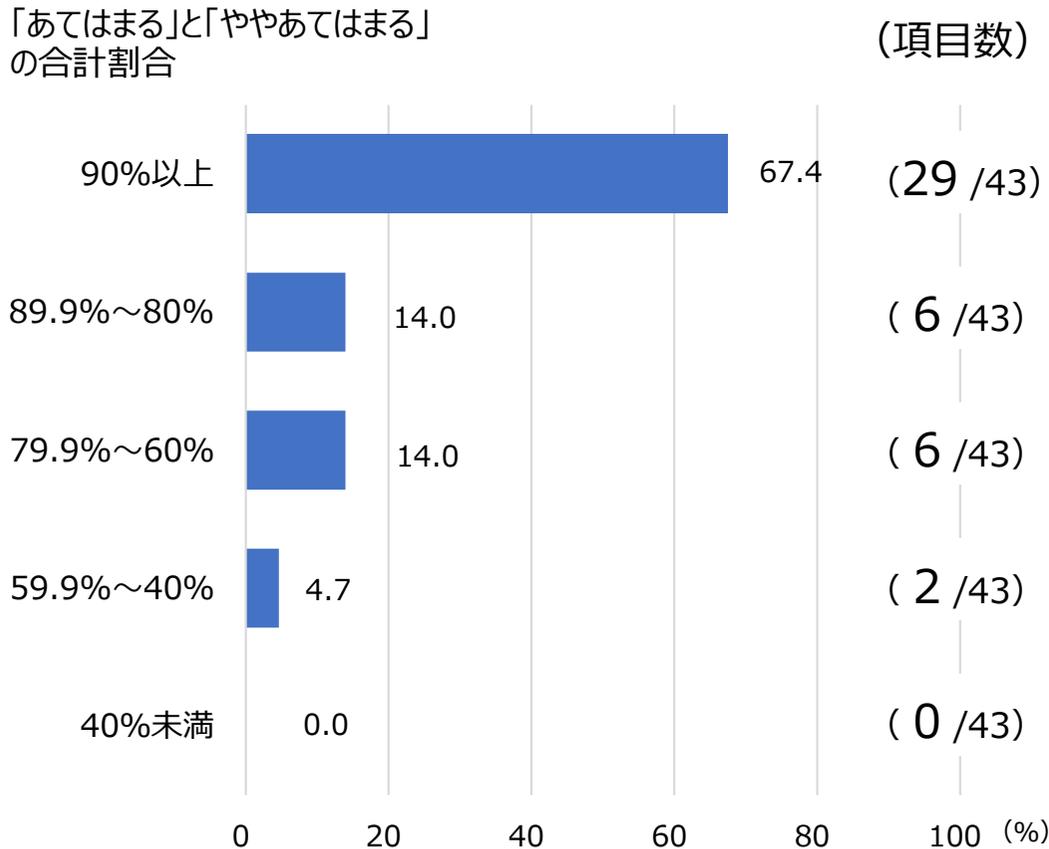
※全体は総回答（約3,700件）の単純平均により算出



乳用牛の結果

- 本調査は**43の確認項目**について実施し、**総回答数は375件**であった。
- 全項目の約7割において、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合が90%以上であった。そのうち、「あてはまる」のみの割合は、約50%から約90%と項目ごとに幅があった。
- 実施状況が低い項目としては、「繋ぎ飼い方式で飼われている牛の運動」と「危機管理マニュアル等の習熟」等であった。

【全項目の達成度】



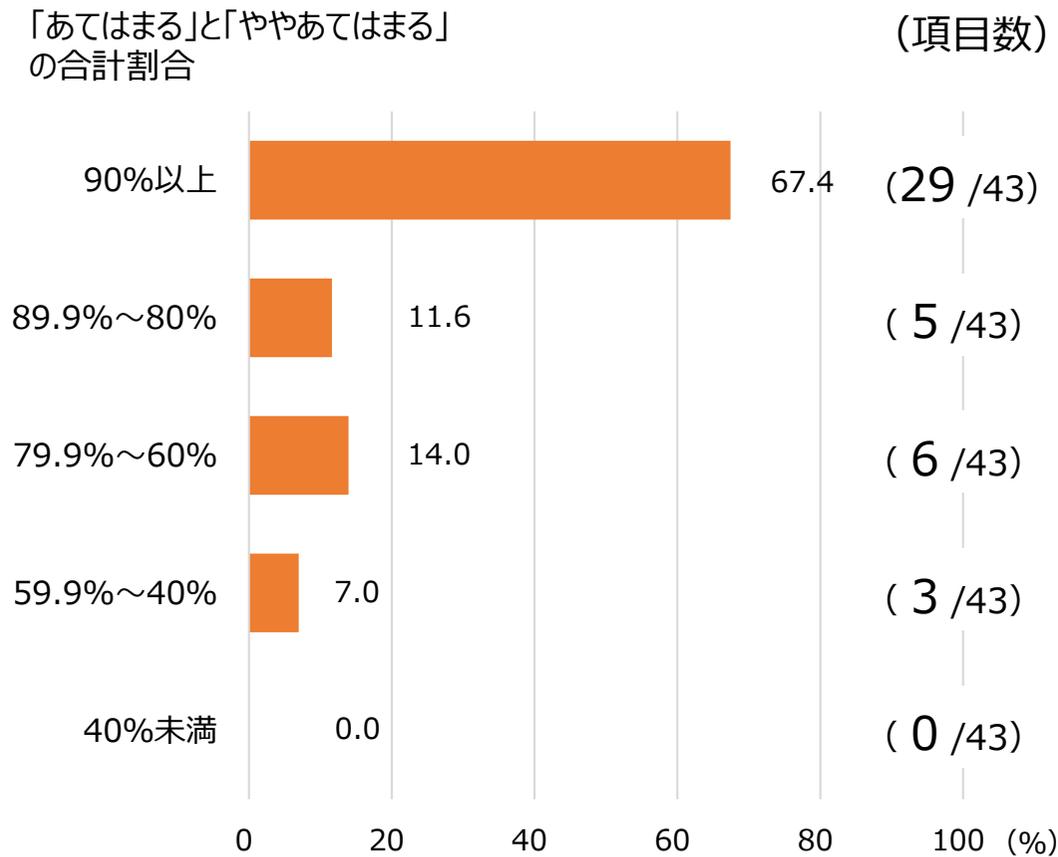
【主な結果】

| チェック項目 | 「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合 ※ () は「あてはまる」のみ |
|--|--|
| 1日1回以上、牛の飼養環境や健康状態を確認している。 | 99.2% (92.0%) |
| 除角は、角が未発達の時期（遅くとも生後2か月以内）に行い、それ以降は、常に獣医師による麻酔薬の投与の下で行っている。 | 81.4% (61.4%) |
| 断尾は行っていない。 | 87.7% (85.0%) |
| 繋ぎ飼い方式で飼われている牛は、繋がれていない状態で運動が十分にできるようにしている。 | 46.6% (26.7%) |
| フリーストール牛舎の場合、少なくとも1頭当たり1牛床を準備している。 | 96.2% (79.7%) |
| 災害による影響を可能な限り小さく抑えるため、危機管理マニュアル等を整備している。 | 60.8% (31.7%) |
| 危機管理マニュアル等を習熟するとともに、全ての農場関係者と共有している。 | 56.1% (25.4%) |

肉用牛の結果

- 本調査は**43の確認項目**について実施し、**総回答数は760件**であった。
- 全項目の約7割において、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合が90%以上であった。そのうち、「あてはまる」のみの割合は、約50%から約90%と項目ごとに幅があった。
- 実施状況が低い項目としては、「危機管理マニュアル等の整備・習熟」と「発電機など予備システムの点検」等であった。

【全項目の達成度】



【主な結果】

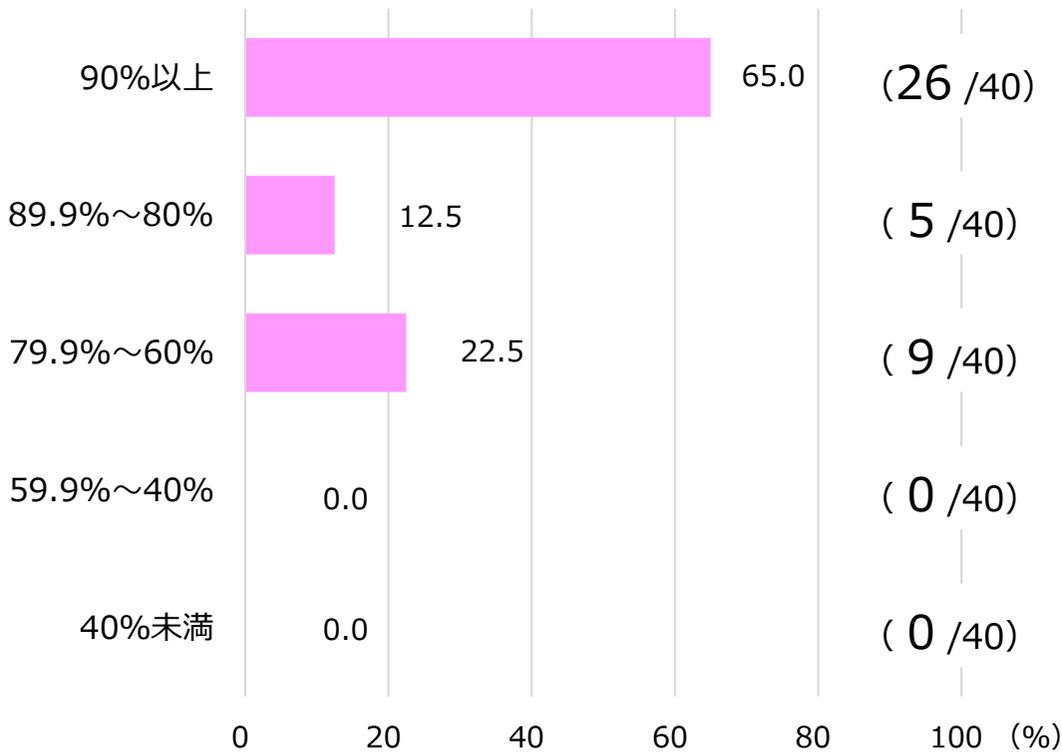
| チェック項目 | 「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合 ※ () は「あてはまる」のみ |
|--|--|
| 1日1回以上、牛の飼養環境や健康状態を確認している。 | 99.2% (91.5%) |
| 除角は、角が未発達の時期（遅くとも生後2か月以内）に行い、それ以降は、常に獣医師による麻酔薬の投与の下で行っている。 | 60.4% (31.2%) |
| 去勢は、生後3か月以内に行い、それ以降は、なるべく早期に行うとともに、必要に応じて、獣医師による麻酔薬等の投与の下で行っている。 | 85.8% (64.1%) |
| 鼻環の装着後は過度に捻る等不適切な使用はしない。 | 99.3% (86.1%) |
| 繋ぎ飼い方式で飼われている牛は、繋がれていない状態で運動が十分にできるようにしている。 | 71.2% (40.1%) |
| 災害による影響を可能な限り小さく抑えるため、危機管理マニュアル等を整備している。 | 57.9% (24.0%) |
| 警報や発電機などの予備システムは、定期的に点検している。 | 59.7% (26.1%) |

豚の結果

- 本調査は**40の確認項目について実施し、総回答数は491件**であった。
- 全項目の6.5割において、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合が90%以上であった。そのうち、「あてはまる」のみの割合は、約70%から100%近くと項目ごとに幅があった。
- 実施状況が低い項目としては、「チェックリスト等を用いたアニマルウェルフェアの状態確認」や「危機管理マニュアル等の整備・習熟」等であった。

【全項目の達成度】

「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合



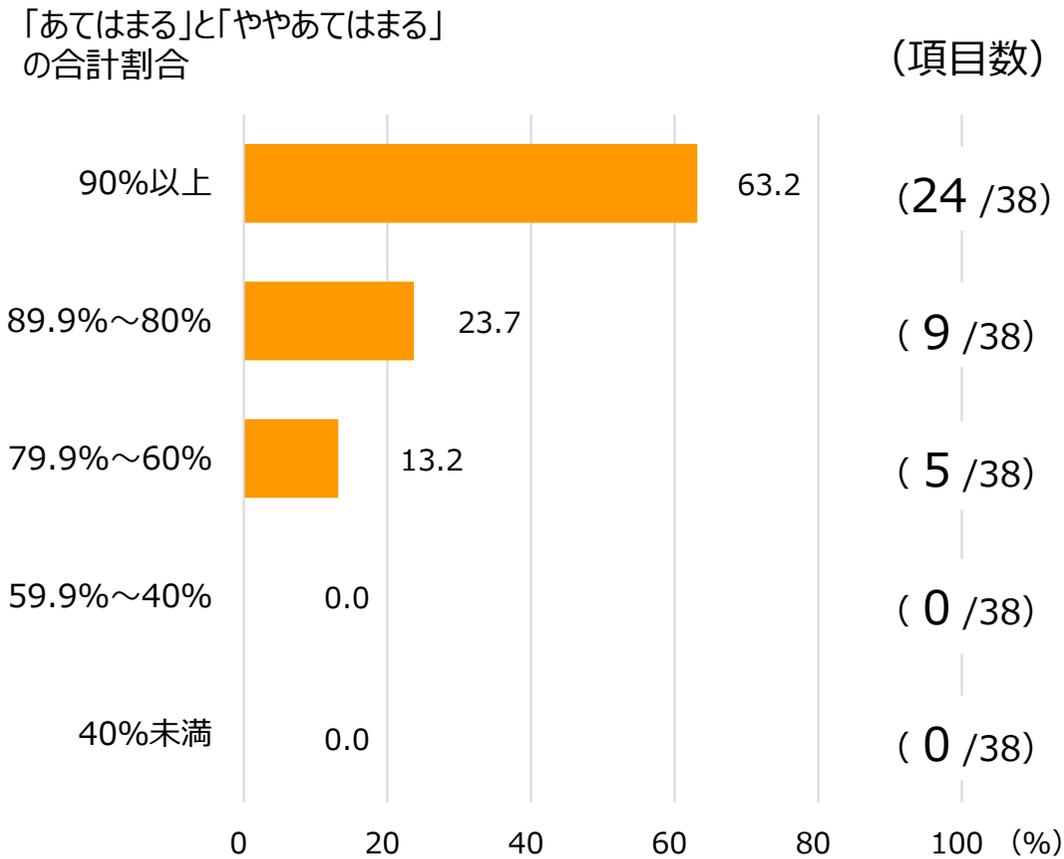
【主な結果】

| チェック項目 | 「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合 ※ () は「あてはまる」のみ |
|---|--|
| 1日1回以上、豚の飼養環境や健康状態を確認している。 | 100% (97.1%) |
| 去勢は、訓練を受けた者が、豚の痛み、苦痛を可能な限り少なくする方法で、できるだけ早期に行っている。 | 96.6% (81.6%) |
| 歯切りは、歯の先端のみをやすりで研磨したり、ニッパーで切断する方法とする。 | 92.5% (86.5%) |
| ストールは、壁や上の棒にぶつかることなく自然な姿勢で起立できるようにしている。 | 97.2% (85.2%) |
| ストールは、隣の豚を邪魔せず横臥できる適切な大きさのものを using している。 | 95.1% (67.1%) |
| チェックリスト等を用いるなど、アニマルウェルフェアの観点で定期的に飼養管理の現状を確認している。 | 67.4% (36.3%) |
| 災害による影響を可能な限り小さく抑えるため、危機管理マニュアル等を整備している。 | 68.1% (41.2%) |

採卵鶏の結果

- 本調査は**38の確認項目について実施し、総回答数は409件**であった。
- 全項目の約6割において、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合が90%以上であった。そのうち、「あてはまる」のみの割合は、約70%から100%近くと項目ごとに幅があった。
- 実施状況が低い項目としては、「チェックリスト等を用いたアニマルウェルフェアの状態確認」や「危機管理マニュアル等の整備・習熟」等であった。

【全項目の達成度】



【主な結果】

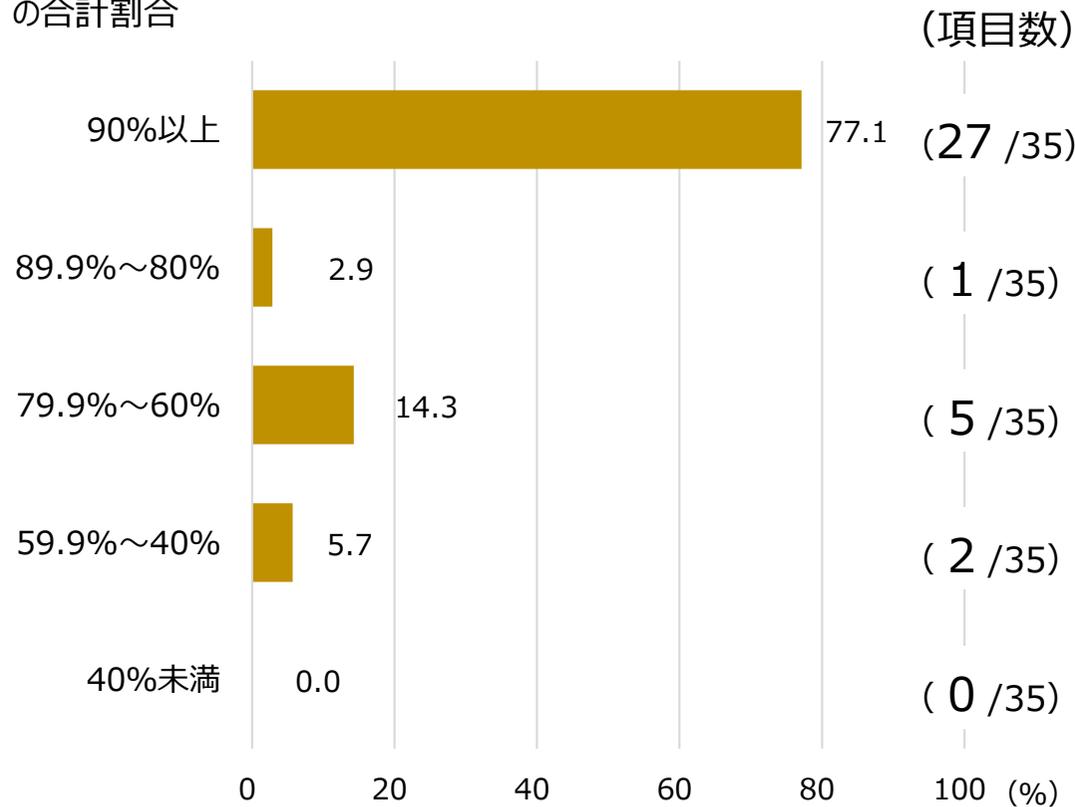
| チェック項目 | 「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合 ※ () は「あてはまる」のみ |
|---|--|
| 1日1回以上、鶏の飼養環境や健康状態を確認し、飼養管理に関する記録をつけている。 | 88.7% (70.8%) |
| ビークトリミングは、痛みを最小限に抑え、必要最小限の部分のみを取り除いている。 | 98.8% (91.7%) |
| 換羽処理の際、24時間以上の絶食は行わないようにしている。 | 63.0% (26.4%) |
| 換羽処理の際、常に飲水可能としている。 | 99.1% (97.3%) |
| ケージ飼養では、飼料及び水の摂取が可能で、自然な姿勢で移動したり姿勢を正常に調整したりできるような飼養密度としている。 | 93.4% (66.9%) |
| チェックリスト等を用いるなど、アニマルウェルフェアの観点で定期的に飼養管理の現状を確認している。 | 70.9% (41.3%) |
| 災害による影響を可能な限り小さく抑えるため、危機管理マニュアル等を整備している。 | 73.4% (51.0%) |

肉用鶏の結果

- 本調査は**35の確認項目について実施**し、**総回答数は1306件**であった。
- 全項目の約8割において、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合が90%以上であった。そのうち、「あてはまる」のみの割合は、約70%から100%近くと項目ごとに幅があった。
- 実施状況が低い項目としては、「チェックリスト等を用いたアニマルウェルフェアの状態確認」等であった。

【全項目の達成度】

「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合



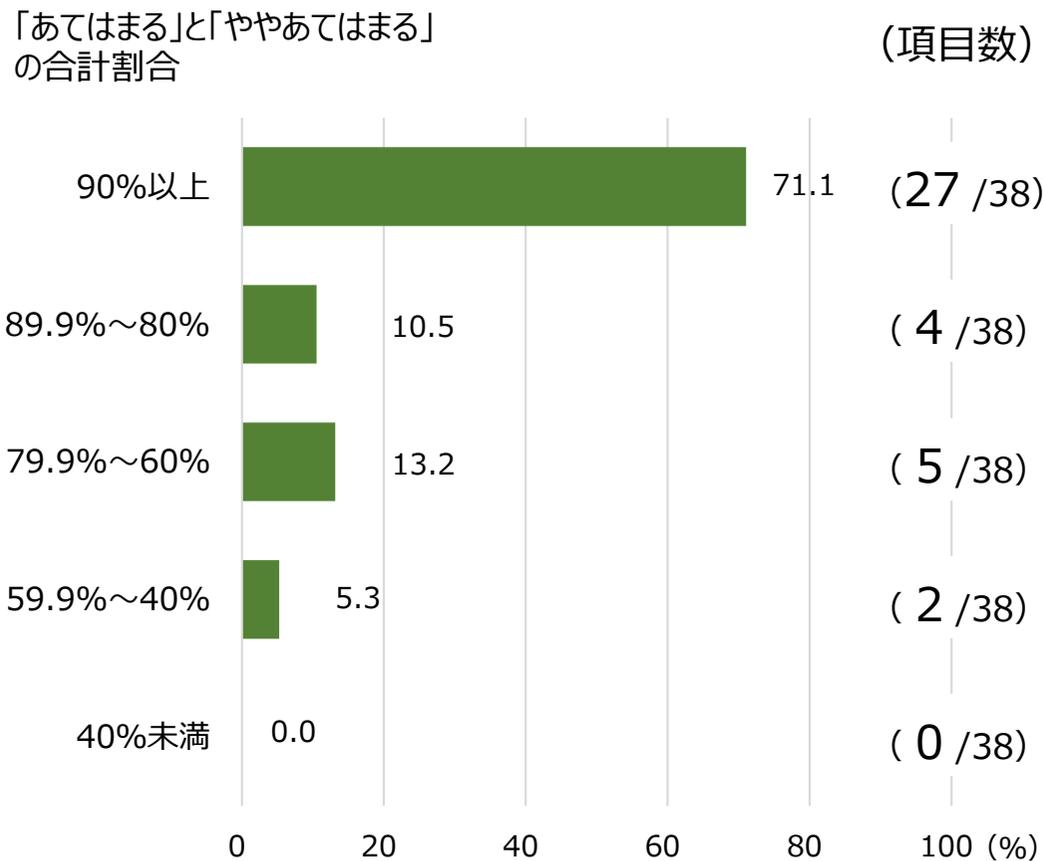
【主な結果】

| チェック項目 | 「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合 ※ () は「あてはまる」のみ |
|--|--|
| 1日1回以上、鶏の飼養環境や健康状態を確認し、飼養管理に関する記録をつけている。 | 99.7% (99.0%) |
| ビークトリミングは、痛みを最小限に抑え、必要最小限の部分のみを取り除いている。 | 100% (97.1%) |
| 食鳥処理前は、輸送等の時間も考慮した上で、過度に長時間の絶食は行わないようにしている。 | 99.7% (98.3%) |
| 同じ鶏群の全ての鶏に対し、正常な姿勢をとる等のために十分な空間を与えている。 | 90.0% (83.8%) |
| 鶏のストレスを低減し、通常の行動等のため、暗期を適切に設けている。 | 60.1% (55.6%) |
| チェックリスト等を用いるなど、アニマルウェルフェアの観点で定期的に飼養管理の現状を確認している。 | 53.8% (43.2%) |
| 災害による影響を可能な限り小さく抑えるため、危機管理マニュアル等を整備している。 | 69.8% (57.0%) |

馬の結果

- 本調査は**38の確認項目**について実施し、**総回答数は387件**であった。
- 全項目の約7割において、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合が90%以上であった。そのうち、「あてはまる」のみの割合は、約70%から約90%と項目ごとに幅があった。
- 実施状況が低い項目としては、「危機管理マニュアル等の整備・習熟」等であった。

【全項目の達成度】



【主な結果】

| チェック項目 | 「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計割合 ※ () は「あてはまる」のみ |
|---|--|
| 1日1回以上、馬の飼養環境や健康状態を確認している。 | 99.3% (89.7%) |
| 去勢を行う場合、可能な限り苦痛を生じさせない最適な方法及び時期について獣医師の指導を求め、馬へのストレスの防止や感染症の予防に努めている。 | 95.7% (82.7%) |
| 個体識別を目的としてマイクロチップの挿入や烙印を実施する場合は、合併症の兆候を識別できるように、使用方法に関する知識を習得している。 | 81.7% (67.2%) |
| 舎飼いされている馬は屋内のみでの飼養を避け、長時間屋内に閉じ込めないようにしている。 | 95.5% (81.6%) |
| 災害による影響を可能な限り小さく抑えるため、危機管理マニュアル等を整備している。 | 56.4% (28.2%) |
| 危機管理マニュアル等を習熟するとともに、全ての農場関係者と共有している。 | 54.8% (26.0%) |